

複製画使用報告書

使用者	機関（学校名）：茨城県立水戸高等特別支援学校 職・氏名：教諭 片田 敏子	
使用期間	令和4年5月23日（月）～令和4年6月10日（金）	
使用のねらい	<input type="checkbox"/> 実物サイズの複製画を鑑賞することで、名画に対する興味関心をたせる。 <input type="checkbox"/> 実物を身近に触れることで、作者の考えや細かい描写にまで目を向け、鑑賞する力を高める。	
使用した複製画	点数	5点
	作品名	作者名
	✓ ローヌ川の星月夜	フィンセント・ファン・ゴッホ
	✓ 水蛇Ⅰ	グスタフ・クリムト
	✓ 羊飼いの少女	ジャン・フランソア・ミレー
	✓ ひなげし畑	クロード・モネ
✓ プリマベーラ	サンドロ・ボッテチェリ	
活動名	「名画を鑑賞しよう」	
実施方法（活動の流れ）別添可	<ul style="list-style-type: none"> ・作者について（5人の作家の人生やたくさんの作品に触れる）1時間 ・鑑賞しよう（ワークシートをもとに、友達と話し合いながら鑑賞する。）1時間 	
感想等	<p>本校は、軽度の知的障害を有する生徒が卒業後の就労、自立、社会参加のために日々さまざまな学習に取り組んでいます。生徒の実態やこれまでの生活環境の中で生徒が実際に美術館を訪れたり、美術の作品に触れたりする機会が少ないのが現状です。そこで、本校では、美術館の複製画を借用し、より本物に近い状態で名画の鑑賞を行うことで美術作品にに対する興味や、美術館を利用してみたいと思えるような気持ちを育てたいと考えました。まず、生徒の興味関心を引立てるために、実際に鑑賞する時間の前に、作家についての簡単な学習を行いました。作家の人生や作品に触れることで、作家や絵画に興味をもってもらいます。この際には、次回の作品の解説等は控え、たくさんの作品の中の1枚として作品を見せるようにします。そして、授業の最後には、「次回は、この中からひとつだけ選んで、実際に見てみましょう！美術館から借りてきました！」などと伝えました。生徒からは「すごい！」「見れるんだ！」などの声が上がりました。2回目の鑑賞では、できるだけ美術館に近い状態で見られるよう黒い暗幕を壁に貼り、その前に展示をしました。教師がファシリテーターとなり、生徒の「絵を見て気が付いたこと」をもとに、話し合いながら鑑賞していきます。今まで経験の少ない「美術館の絵画を見る」という非日常なことが、意欲付けにもつながり、しっかりと「見る」活動を行うことがで</p>	

きました。また、「ここに女の人と男の人がいる！！」「あれ？腕を組んでるみたい」「星がきれい！」というような客観的な事実をみんなで発見しあいながら、「プロポーズしてたのかも」「夜景デートなんじゃない?!」「ゴッホって黄色とか青たくさん使ってたよね」など、それぞれの意見を伝えたり、友達の意見を聞きながら想像し絵を楽しんだり、鑑賞を深めていくことができました。このような学習経験を通して、絵画に触れることや作品を鑑賞することが生徒の中に有意義な体験として蓄積され、より豊かな生涯を歩む手段のひとつになるとよいと思っています。また、名画を借りた美術館を紹介することで、生徒自身が、親近感をもち美術館へと足を運んでくれたらと思っています。

使用風景（写真等）※当館ホームページに使用してもよい写真

複製画とともに使用した参考資料：（ワークシートなどがあれば添付願います。）

※当館のホームページに掲載させていただく場合がございます。その際は、ご連絡いたします。

※ホームページの「教育・研究」→「複製画の貸出」→「複製画借用申請書」のデータファイルがありますので、入力してご提出ください。